

ななむら

第67号

発行：照来地区公民館

責任者：館長

☎ 92-1738

令和3年1月1日現在

世帯数 532世帯

人口 1,481人

(男686人、女795人)

今年は『丑年』一歩一歩進みましょう！

照来地区の皆さま、昨年は何かとコロナに翻弄された一年でしたが、照来地区公民館事業においても同様で、コロナに翻弄され充分とは言えないものとなりました。今年も当面このような状況が予想されますが、こんなときだからこそアイデアを出し事業を進めてまいりたいと思います。本年も、格別のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

さて、今年は『丑年（牛年）』です。牛は昔から食料としてだけでなく、農作業や物を運ぶときの労働力として、人間の生活に欠かせない動物でした。勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し、身近にいる縁起のよい動物として十二支に加えられたようです。

また、「紐（ひも）」という漢字に「丑」の字が使われていることから、「結ぶ」や「つかむ」などの意味も込められたとも考えられています。

十二支の動物の中で最も動きが緩慢で歩みの遅い丑（牛）の年は、先を急がず一歩一歩着実に物事を進めることが大切な年と言われています。十二支の2番目の干支であることから、子年（ねどし）に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされ、結果を求める時期ではなく、結果につながる道をコツコツと作って行く基礎を積み上げていく時期とされています。

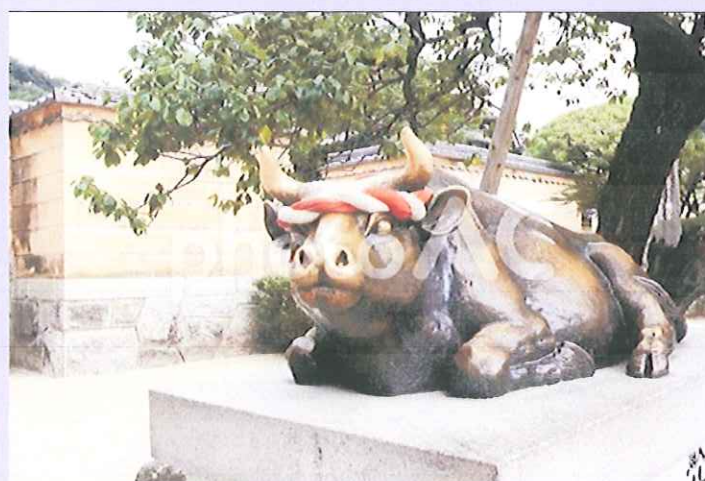
この干支の意味からするとコロナ禍はこうして乗り切るのだと言っているように思えます。何とかコロナが終息する一年であることを願うばかりです。



「菅原道真公」と牛



全国の神社には、色々な動物をかたどった像（神使といって神の使者だとされています。）が置かれているのは皆さんご存知のとおりですが、よく目にするのは「狛犬」だと思います。その他には、稻荷神社であれば「狐」ですし、学問の神様である菅原道真公を祀る天満宮であれば「牛」が置かれています。



では、なぜ天満宮には「丑（牛）」の像が置かれているのでしょうか。

これには、諸説あるようですが、「菅原道真公が丑年・丑の日・丑の刻生まれで、日頃からよく牛をかわいがっていた」ということや「道真公が暗殺されそうになったところを飼う牛が救ったから」「道真公の遺体を運んでいるときに、牛が座り込んで動かなくなったのでそこに埋葬した（その場所が太宰府天満宮）から」など、牛と道真公にまつわる様々ないわれがあります。

また、黙々と働く牛の様子は道真公の教えにも通ずるものがあり、牛を神使として祀っているようです。

写真は、太宰府天満宮に置かれている牛です。

2月行事予定

冬季夢オリンピック!

温泉地域子どもチャレンジスキルアップ実行委員会主催による「冬季夢オリンピック」が、下記のとおり開催されます。これは、地域ぐるみで誰もが気軽に雪上競技や陸上競技に親しむことを目的に開催するものです。

多くの皆さまの参加をお願いします。

■日時：令和3年2月21日(日)
13:00～16:00 受付12:30～

■会場：照来小学校
グラウンド(前半) & 体育館(後半)

■参加対象
原則、温泉地域の小学生、中学生、高校生
及び保護者、地域住民

■種目・バシュート・ストラックアウト(走・投)
・スノーフラッグス(走)
・雪玉入れ(重さで勝負)(投)
・バケツ雪積みタワーリレー(歩)
・目方でドーン! 予選・決勝(積)
・十字綱引き(くつ下で実施)
・勝手にスケート(タイムレース)

※詳しくは、チラシをご覧ください。

お知らせコーナー

照来地区卓球大会中止!

「スポーツクラブ21照来」が、毎年2月11日に開催しております「照来地区卓球大会」は、新型コロナウイルス感染拡大による「緊急事態宣言」が兵庫県に発令されたことを受け、大変残念ですが中止といたします。



照来地区公民館の使用時間

「緊急事態宣言」の発令を受け、照来地区公民館は、2月7日(日)まで午後8時以降使用できなくなりました。

また、飲食を伴う会議等は感染リスクが高いため、使用できないこととなっていますので、ご協力いただきますようお願いいたします。



なお、「緊急事態宣言」が延長された場合、宣言解除の日まで、同様の扱いとなりますので、ご理解ください。

照来の歴史 ⑳ 『丹土の地すべり』

丹土の地すべりは、約300年以前から活発な変動を生じているという記録が残っています。最近では、大正11年に顕著な変動の記録が残っていますが、その後地すべり対策工事が行われ、現在では顕著な変動は認められていません。

『丹土史』には、次のような記述があります。『明治31年以来耕地の沈降滑落が漸次著し、拡大して遂には住宅地に及びその為家屋の移転又は大修理を要するものが7、8軒に及んだ。然るに大正10年12月となり、又その傾向顕著となり該当住民は自己の住宅をその度毎に補修を加えて凌いでいたが、余りにも沈降が激しく一夜の内に支柱が浮いて応急処置に追いつかず、その上危険が伴うので安心して夜も眠れぬ有り様で日夜恐怖に怯えていた。大正11年3月11日突如、面積40町歩(40ha)に亘る地域即ち字油地方を中心に最高10m、最低10厘

(cm)の陥没沈降が起こり、被害甚大で戸数108戸中45戸は傾斜し、その内17戸は安全地帯へ移転した。幸いにして、人畜に被害のなかったのは、その滑落が徐々にやって来た事である。被害額は24万3千808円で県の低利資金7万円が貸与された。この出来事は、村が始まって以来の事であるのみならず県下にも稀に見る惨事で、時の有吉県知事は度々視察に来村され、次の折原知事の視察も受けた。』

この地すべりがなぜ起きたかといえますと、照来層群の泥岩層にある泥岩や凝灰岩が地下水の作用によって、軟弱化また粘土化して地すべり面を形成し、地すべり変動を発生させたようです。特に、融雪期の地下水の増大は地すべりの誘引となることが多いようです。

